

## 夢 の 実 現

校長 倉岡 ナオミ

街にツバメの姿を見かけるようになり、地域ではホタルが飛び始めたとのお話も伺いました。季節は少しずつ夏へと移り変わってきています。

子供たちは、運動会という大きな行事を通して、一つのことに向かってみんなで頑張ることの意味や心地よさ、協力することの大切さ、また、高学年では、行事を支える仕事の難しさや達成感など多くのことを学ぶことができたと思います。改めまして、運動会への御協力、御支援ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

さて、先日「さかなくん」の講演会を聞く機会がありました。朝会で子供たちには話したのですが、皆様にも少しお知らせしたいと思います。「ぎょぎょっ」という挨拶や言葉で親しまれ、現在は東京海洋大学名誉博士、客員準教授、文科省のユネスコ広報大使、農林水産省のお魚大使などの肩書きをお持ちですが、そのきっかけは、小学校の2年生の時に友達が書いた、タコの落書きにあったとのことです。当時はまだタコのことを知らず、そんな可愛い生き物がいるのかと、その日から図書室でタコの図鑑を読みあさり、放課後は魚屋さんに行ってはタコの吸盤の数を数えたそうです。そこで、タコにも様々な種類があることなど、新しいことを知る喜びが膨らんでいきます。その上、夕食ではお母さんに協力してもらって、1か月間ずっとタコ料理三昧だったそうです。それから、田舎である千葉の白浜にタコを見によく出かけるようになり、漁師さんが水揚げした様々なお魚を見ているうちに興味がタコからお魚全般に広がり、現在の「さかなくん」へと進化を図ったとのことです。小学校の卒業文集に、大きくなったら大好きな魚のことをみんなに教えられたいと書いていたそうでしたから、小学校の時の夢を持ち続けたことが実現につながったのでしょう。

自分が興味・関心をもったことを追究することや夢を持ち続けることが自分の道を切り拓いていくことにつながることを改めて考えるとともに、それを支えた家族の在り方をも考えさせられました。子供が興味をもったことに、共感し、それに寄り添ってあげることがどれだけできるでしょうか。1か月も子供が満足するまで、タコ料理を作り続ける……。忍耐が必要ですが、その根底には可能性を信じ、応援してあげたいという深い愛情があったのだらうと思います。なかなか学習には集中力を発揮できない子も、自分の好きなことには熱中して、他の声は耳に入らないといったこともあります。全てが他の子と同じようにできなくても、その子には何か光る部分があるのかも知れません。それを見つけ、認め、大事に育てることができたなら、きっとその子だけの素敵な夢を花開かせることができるのかも知れません。その子らしい夢の実現に向けて私たちができることは、無限の可能性を信じ愛情を持って必要な支援を考えていくことでしょうか。

さあ、この子にはどんな力が……。きらっと光る宝を探しましょう。楽しみながら。

